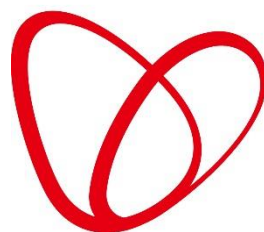




健康食品・化粧品の受託（OEM）総合メーカー



株式
会社 **AFC-HD**
アムスライフサイエンス



2020年8月期 第2四半期 決算補足説明資料

(2019年9月1日～2020年2月29日)

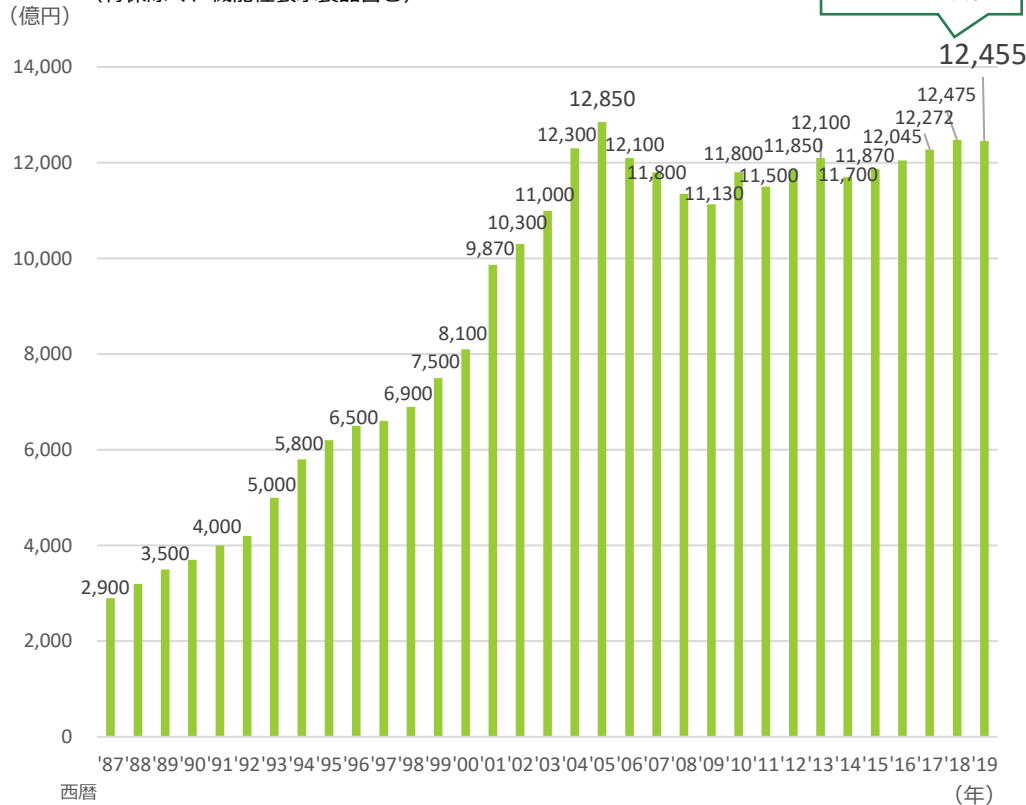


健康食品業界の動向

健康食品市場の推移

【2019.12.24健康産業速報掲載】

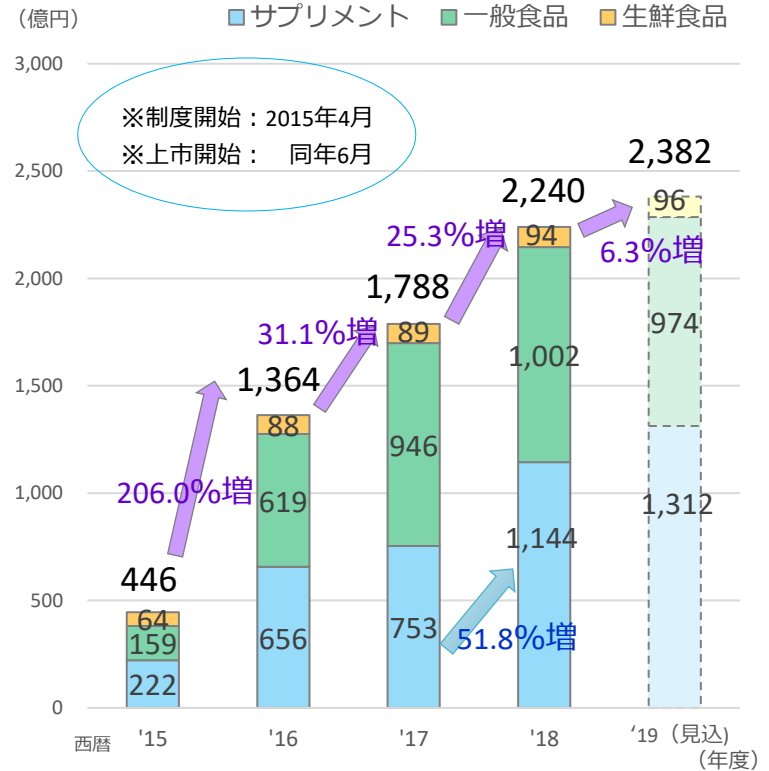
(特保除く、機能性表示食品含む)



前年比
0.2%減

機能性表示食品の市場規模

【2020年版 健康食品の市場実態と展望 / 矢野経済研究所】



※制度開始：2015年4月
※上市開始：同年6月

2019年の健康食品市場は、インバウンド需要の失速や自然災害などの影響を受け、前年比0.2%減の1兆2,455億円となった。

機能性表示食品の市場規模は、2018年度が2,240億円となり、2019年度は2,382億円になると見込まれる。2018年度は、特にサプリメントの伸びが前年度比51.8%増となった。

健康食品 受託製造市場の動向

健康食品受託製造企業のOEM売上高推移

【出所：2015・2017・2019年版 健康食品の受託製造市場／矢野経済研究所】を基に当社で作成

(矢野経済研究所推定) (売上高：百万円)

		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度 (見込)	
		売上高	シェア	売上高	シェア	売上高	シェア	売上高	シェア
1	A社	21,268	14.6%	22,539	15.2%	22,971	15.3%	26,869	16.8%
2	B社	15,730	10.8%	16,800	11.3%	17,200	11.5%	18,080	11.3%
3	C社	10,700	7.3%	12,240	8.3%	12,920	8.6%	15,200	9.5%
4	D社	9,660	6.6%	9,700	6.5%	10,140	6.8%	10,600	6.6%
5	E社	9,340	6.4%	10,230	6.9%	9,900	6.6%	9,900	6.2%
6	当社	7,720	5.3%	7,687	5.2%	8,509	5.7%	9,389	5.9%
7	F社	6,440	4.4%	7,200	4.9%	7,940	5.3%	7,120	4.4%
8	G社	4,150	2.8%	4,200	2.8%	4,600	3.1%	5,100	3.2%
9	H社	3,100	2.1%	3,400	2.3%	3,670	2.5%	5,058	3.2%
10	I社	4,600	3.2%	4,300	2.9%	4,680	3.1%	4,900	3.1%
	その他	53,292	36.5%	49,904	33.7%	47,170	31.5%	47,884	29.8%
	合計	146,000	100.0%	148,200	100.0%	149,700	100.0%	160,100	100.0%

※2019年度健康食品の受託製造市場規模予測は161,700百万円。同年度の当社OEM部門の売上高は9,591百万円。推定シェア5.9%予測

矢野経済研究所 推定の「健康食品受託製造企業のOEM売上高推移表」によれば、健康食品受託製造市場の7割以上のシェアを業界トップ10の企業が占める状況となっており、当社のOEM部門は市場の5%台のシェアを確保し、業界6位の地位を維持しております。

第2四半期決算報告



第2四半期決算の状況（連結）

連結 業績比較表（直近3期間）

（単位：百万円）

連結	2018年8月期 第2Q実績	2019年8月期 第2Q実績	2020年8月期 当初 第2Q計画	2020年8月期 第2Q実績	対前年同期 増減率
売上高	7,723	8,338	8,200	7,892	△5.3%
営業利益	516	598	460	565	△5.5%
経常利益	504	617	460	567	△8.1%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	338	502	300	352	△29.8%
経常利益率	6.5%	7.4%	5.6%	7.2%	—

減収要因：美容商材の伸長により海外部門の売上高が前年同期の2倍となったが、前年同期に好調であった乳酸菌・酵母関連商品の受注減少などによりOEM部門が減収となった。

減益要因：粗利益率が改善し売上総利益は前年同期並みとなったものの、株主優待費用の増加・貸倒引当金の計上などにより、販売費及び一般管理費が増加した。

親会社株主に帰属する四半期純利益については、固定資産売却益の減少の影響も加わった。

連結 事業部門別 売上高の状況（直近2期間） （単位：百万円）

	事業部門	2019年8月期 第2Q実績	2020年8月期 第2Q実績	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率	増減要因
ヘルスケア事業・医薬品事業	OEM部門	5,130	4,248	△881	△17.2%	乳酸菌・酵母関連商品の受注減少
	海外部門	466	935	468	100.4%	インドネシア顧客の伸長
	店舗販売部門	955	949	△5	△0.5%	店舗数の減少
	通信販売部門 AFC：サプリ・化粧品・ 漢方薬	734	702	△31	△4.3%	葉酸サプリの受注減少
	卸販売部門 AFC：サプリ・化粧品 本草：医科・OTC・ サプリ・化粧品	992	988	△4	△0.4%	miteteシリーズの受注減少
	その他	58	67	9	15.6%	—
合計	—	8,338	7,892	△445	△5.3%	前期の第1四半期で好調であった商材のOEM受注の減少が響いた

連結 資産の状況

※借入・社債・割賦未払金

(単位：百万円)

連結	2019年8月期	2020年8月期 2Q	対前期末増減額
資産合計	18,327	18,248	△78
内訳 流動資産	9,629	9,556	△72
固定資産	8,697	8,692	△5
負債合計	8,217	7,983	△233
内訳 流動負債	6,896	6,026	△869
(上記のうち有利子負債※)	(3,692)	(2,959)	(△732)
固定負債	1,321	1,957	636
(上記のうち有利子負債※)	(686)	(1,299)	(612)
純資産	10,109	10,265	155

資産：預け金の減少などにより流動負債のその他が67百万円減少。固定資産では投資その他の資産が51百万円、無形固定資産が42百万円増加した反面、償却により有形固定費が99百万円減少。

負債：返済による有利子負債の減少120百万円に加え、未払消費税等の減少などにより流動負債のその他が103百万円減少。

純資産：親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、利益剰余金が141百万円増加した。



第2四半期決算の状況（単体）

単体 業績比較表（直近3期間）

（単位：百万円）

単体	2018年8月期 第2Q 実績	2019年8月期 第2Q 実績	2020年8月期 第2Q 実績	対前年同期 増減率
売上高	6,113	6,927	6,491	△6.3
営業利益	380	571	465	△18.5
経常利益	384	552	450	△18.6
四半期純利益	222	377	279	△25.9
経常利益率	6.3%	8.0%	6.9%	—

減収要因：連結に記載した減収要因と同じ。

減益要因：粗利益率は改善し売上総利益は前年同期を上回った。一方、株主優待の処理方法を変更したことなどにより、販売費及び一般管理費が増加し、減益となった。

AFC-HDアムスライフサイエンスグループ

上期の状況及び 下期の取り組みについて





OEM部門 報告と取り組み

AFC-HDアムスライフサイエンス

上期

売上高前年同期比：17.2%減

■ 減収要因

- 前期に好調であった乳酸菌・酵母関連商品の受注が減少

■ 機能性表示食品

【当社が取り扱う届出の受理件数】

前年同期比 30社55品目 → 49社126品目
増加

【取引社数】

前年同期比 330社 → 325社 減少

■ 製造

- 昨年9月 高性能ハードカプセル充填機を1台増設



更なる納期短縮を図る



ハードカプセル充填機

下期

- 機能性表示食品の申請サポートの強化
 - ・ 原料メーカー・販社・日本予防医学研究所と連携を取りながら推進していく



受理件数の増加による売上増

国内市場の競争激化



- 営業サービスの強化
 - ・ 営業力・製品開発力・製造能力を強化していく



海外部門 報告と取り組み

AFC-HDアムスライフサイエンス

上期

売上高前年同期比：100.4%増

■ 増収要因

● インドネシア顧客の受注が大きく伸長

・ 美容商材

インドネシアで人気のプラセンタ商材
「SOP100+」



● 既存顧客における受注が堅調に推移



昨年10月、インドネシアにて大規模イベントに参加

下期

● 既存大口顧客への拡販

- ・ 品目数の増加による売上増を目指す

高付加価値の美容商材（馬プラセンタなど）

● 販路の拡大

- ・ 新規大口OEM顧客の開拓
- ・ 中国大手顧客の開拓



上期 売上高前年同期比：0.5%減

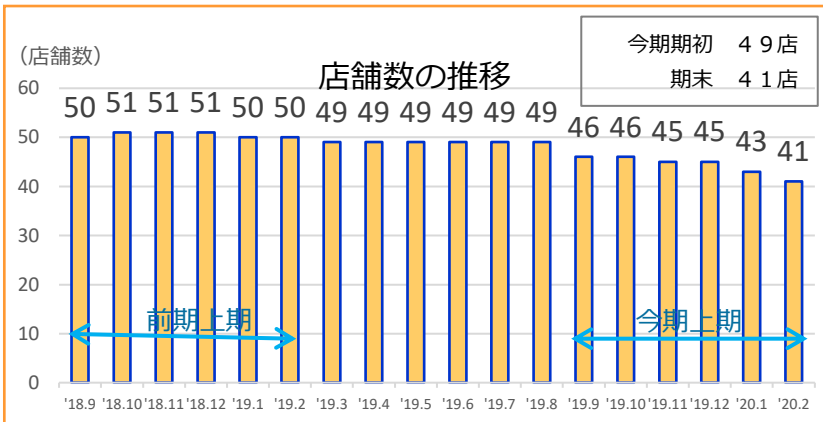
- 店外催事、ホテル催事、セミナー、相談会などの実施

■ 減収要因

- 店舗数の減少

・ 今期上期 8店舗を閉店

伊勢丹府中、伊勢丹相模原、東急ながの、大丸札幌、東急吉祥寺、天満屋広島アルパーク、東武池袋、三越銀座（ダブルテナントを統合）



◎ 出退店を除く既存店舗においては、売上高が前年同期を上回った

下期

- 外商、友の会、カード顧客などを活用した組織販売を増強する
- ・ ホテル催事、チラシ封入、SNSなど



催事、セミナー、相談会などで活用する「皮膚のカロテノイド測定器（ベジメータ®SC）」



西武池袋駅地下コンコースで流れる「AFC LAB.西武池袋店」デジタルサイネージ

- 専門知識をもつ管理栄養士、サプリメントアドバイザーなどの採用、育成

上期 売上高前年同期比：4.3%減

●機能性表示食品 5 品目を新発売



●記事広告などでの新聞広告投下

- ・新規顧客の獲得が順調
- ・爽快柑シリーズの好調



記事広告
(2020年1月20日 朝日新聞 朝刊)

■減収要因

- 『葉酸サプリ』の低迷 (前年同期比31.3%減)
 - ・葉酸サプリ市場の競争激化

下期

- ネット販売において、定期購入コースへの加入を強化していく



売上を安定させる



AFC公式オンラインショップでの定期購入案内画面

- ネット販売における販促の見直し

- ・制作物のクオリティー見直し
- ・レスポンスの見込める広告媒体の新規開拓



- 新聞、テレビ広告は、成果が上がってきているので、さらに向上させる

上期 売上高前年同期比：9.0%減

●機能性表示食品 4 品目を新発売



菊の花 (ルテオリン) プレミアム 11月発売
 GABA (ギャバ) プレミアム 12月発売
 ブラックジンジャー プレミアム 12月発売
 DHA・EPA プレミアム 1月発売

●新規販路の開拓および販売強化

展示会・販売会へ積極的に出展

- ・ダイエット&ビューティーフェア (東京)
- ・親和会：取引先総合展示会 (大阪)
- ・みどり会 (東京・大阪)

■減収要因

●miteteシリーズなどが苦戦

下期

●新規販路の開拓

引き続き、展示会・販売会へ出展

- ・7月：ウェルネスフードジャパン など



2019年7月 ウェルネスフード
 ジャパンのAFCブース

●取引先に合わせた販促企画の検討、実施

●新商品の開発

- ・機能性表示食品のラインアップ充実を図る
- ・取引先に合わせた先行 (専売) 商品企画の検討、実施

上期 売上高前年同期比：2.6%増

■増収要因

●ジェネリック医薬品の好調

- ・ピムロ顆粒（下剤） 前年同期比 118%
 <先発薬アローゼン：市場約15億円>



・シルデナフィル錠（勃起改善薬）



・フィナステリド錠（AGA治療薬）



●漢方薬のPB受注が増加（一般用医薬品）



下期

- 引き続き、重点3商品の拡売
- 新たに、勃起改善薬を発売準備中
 <先発薬：シアリス / 後発薬：タダラフィル>

【重点4商品】

ピムロ顆粒、シルデナフィル錠、フィナステリド錠、
 タダラフィル錠



「ピムロ顆粒」
2017年11月発売



「シルデナフィル錠」
2014年9月発売



「フィナステリド錠」
2016年12月発売



「タダラフィル錠」
発売準備中

- 解熱鎮痛剤（一般用医薬品）を新たに
 上市予定

AFC-HD アムスライフサイエンスグループ

業績予想



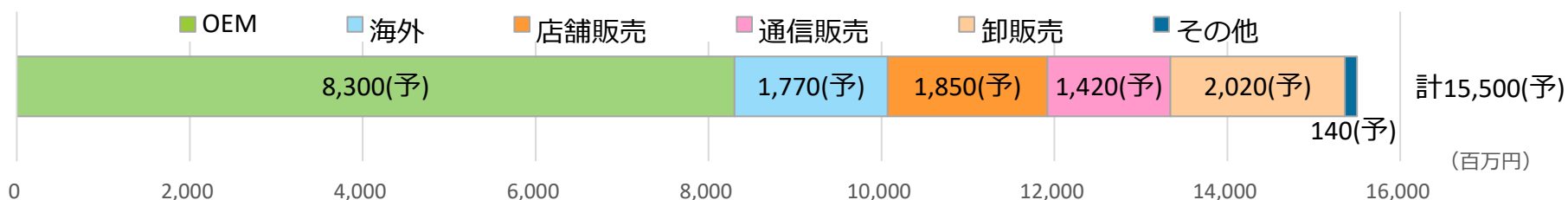
- OEM部門及び卸販売部門などにおいて、商談が滞っている状況がある。
- OEM部門において、訪日客減少・外出自粛により、免税店やドラッグストアなどを販売先とする商材に受注の停滞が見られる。
- 店舗販売部門において、営業時間の短縮や臨時休業を実施している店舗がある。
- 株式市場における株価下落により、有価証券評価損の計上が見込まれる。

2020年8月期 連結予想

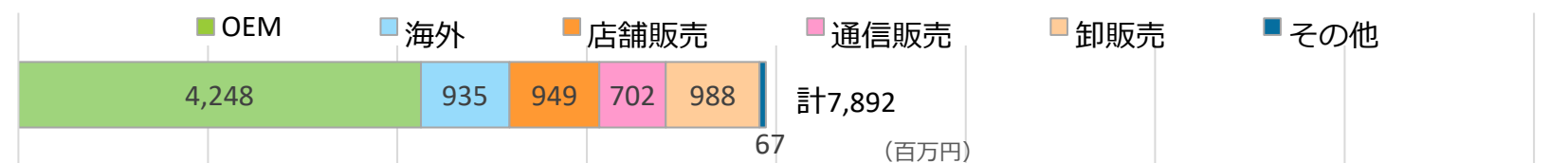
(単位：百万円)

連結	2018年8月期	2019年8月期	2020年8月期 第2四半期	2020年8月期 (予想)
売上高	15,795	16,252	7,892	15,500
営業利益	1,023	981	565	900
経常利益	982	1,014	567	900
親会社株主に帰属する 当期純利益	736	783	352	550

● 2020年8月期 通期 部門別 売上高 予想 (ヘルスケア事業・医薬品事業)



● 2020年8月期 上期 部門別 売上高 実績 (ヘルスケア事業・医薬品事業)



最後まで御覧いただきまして誠にありがとうございました



株式
会社 **AFC-HD**
アムスライフサイエンス



本資料に関するお問い合わせ

社長室

TEL : 054-281-5238

FAX : 054-281-5139

E-mail : ir-ams@ams-life.com

URL : <https://www.ams-life.co.jp/>

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した予想であり、潜在的なリスク・不確実性が含まれています。
そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記述している将来の見通しと異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。